

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立三郷工業技術高等学校)

目指す学校像	「ものづくりの精神」に基づき、豊かな人間性を育成するとともに、学力向上をとおして、生徒の自信を高め、地域に貢献できる技術者を育成する
--------	--

重点目標	1 基礎学力や専門知識・技術の習得を重視し、学習指導を充実させる 2 生徒指導及び進路指導の充実を図り、社会人基礎力を身に付けさせる 3 開かれた学校づくりに取り組み、工業高校の魅力を積極的に発信する
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	5名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価 (1 月 1 7 日 現 在)			実 施 日 平 成 3 1 年 2 月 1 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	現状：基礎学力や家庭学習習慣が身に付いていない生徒が見受けられる 課題：生徒の意欲を引き出し、確かな職業観を育成するため、生徒が主体的に学ぶ機会を増やす必要がある	①基礎学力の向上と主体的な学習態度の育成	①公開授業等により、主体的・対話的で深い学びを促す実践	①「授業内容を理解できた」という生徒の割合75%を達成 ②きめ細かな指導をし、成績優秀者数5%増加、成績不振者10%減少の達成	①学校生活アンケートにおいて、1学年は75%、2学年は60%、3学年は76%となり、2学年で達成することができなかった ・成績優秀者は減少し、成績不振者は減少したものの、3.5%の減少にとどまった ②埼玉県高校生専門資格等取得表彰69名ジュニアマイスターシルバー28名、新たに加わったブロンズは、36名が認定 表彰率62.4%(昨年比0.9%増加) ・全国プログラミングコンテスト20校55チーム参加し5位入賞、埼玉放送コンクール朗読部門県大会出場、産業教育フェアへの参加、鉄道博物館にてミニ新幹線の運行、電子技術部「高校生ロボット相撲2018」全国大会ラジコン型全国ベスト16入賞等多くの生徒が活躍した	B	○中学校で学んだことも踏まえつつ、基礎・基本を重視して基礎学力の向上に力を入れる ○成績優秀者も勉強意欲が高まるような授業の工夫をする	○コンピュータを扱う仕事をしていると分数を多く使う機会があるので、基礎学力の向上は重要であると考え。また、文章が読めない。分からないとならないよう、漢字の学習に力を入れていることに賛同できる。 ○学力向上だけでなく、工業に関する基礎学力を上げられるよう、工業基礎学力診断テストを受けてみるのはいかがでしょうか。
			②基礎力診断テストを活用し学力向上につなげる	①結果を把握するとともに前回と比べて向上した生徒が増えたか				
		②専門知識と技術の確実な習得	①資格取得や各種コンテストへの挑戦	①資格取得率やコンテスト参加する生徒が増加したか	①いつでも就職・進学での面接に対応できるような身だしなみとなるよう指導しているため、何度も指導が必要な生徒はほとんどいなかった ・1学年の自転車事故件数が多くあり、交通安全に対する意識をしっかりと持たせる必要がある ・体育館改修工事により、体育館が使えないことから、近隣小中学校、特別支援学校との連携により合同練習等が行えた ②進学希望者を除いてほぼ100%に近い進路実現をしている。また、今年度は1353社1927件の求人があり、大幅に増加した ・今年度はすべての学年において80%を超える満足度を維持することができた ・外部講師を招き、面接指導を実施し、進路実現に向けて意識付けを行うことができた	A		
			②外部の教育力を活用	②県教育委員会等の事業に参加する生徒が増加したか				
2	現状：挨拶、身だしなみなどは良好であり、部活動に意欲的に取り組んでいる生徒が多いが、加入率の減少が課題である 課題：授業や資格取得指導などとおして、コミュニケーション能力を高め、集団の一員としての自覚と責任を高める必要がある	①規律ある生徒の育成を目指した組織的・重点的な生徒指導	①生徒一人ひとりを理解した生徒指導の実施	①生徒理解に努め、自己肯定感を高められる生徒指導の充実を図る ②登下校時の交通マナーの向上	○指導基準のさらなる明確化や交通ルール順守の徹底を図る ○企業とのより連携を強めて信頼される学校づくりに努める	B	○達成率が上がっていることは評価できるが、あいさつなど100%であるべきものについてはどう対処していくかを考えてほしい。 ○1学年の事故が中高共に多いことが分かった。入学後の指導を考え、事故を減らしてほしい。 ○様々な面で先に進むことができるよう、「気づき」を大切にしてほしい。 ○企業が求めている人材や求めていることは何かを考えた指導をしてほしい。	
			②体育館改修工事に伴い、他校との合同練習などを通して本校生徒の良さを伝える	①近隣小・中・高校と部活動の合同練習などを積極的に行うことができたか				
		②主体的な進路活動による就職率・進学率100%を実現	①生徒・保護者に的確な情報提供を行い、主体的な進路活動の実現	①進路実現100%を達成 ②「進路指導が十分に行われている」という生徒・保護者の割合80%を達成	○新学習指導要領に合わせた学校の体制にするために、情報収集を欠かさないようにする	A		
			②進路先との連携し3年間を見通したキャリア教育の実施	①教職員の企業訪問及び大学等入学説明会への積極的な参加 ②組織的な面接指導、進学補習の実施				
3	現状：開かれた学校づくりのため、積極的に情報提供しているが、生徒募集につなげていない 課題：地域や小中学校関係者に分かりやすい情報提供を行うとともに、PR活動や来校できる機会を増やす必要がある	①積極的に情報提供し、志願者増加させる	①HP等で授業や学校生活等の特色や魅力・成果について積極的に情報を発信	①生徒募集において、各科志願倍率1.0倍を確保する ②HPをリニューアルし、閲覧数・更新回数増加	①学校見学会を12月に設けるなどして生徒募集に向けたが、1.0倍確保が難しい状況にある ・閲覧数は、昨年同様であったが、更新回数は放送部による学校紹介や部活動インタビューやイベント紹介などの新しい試みにより増えた ・中学校への出前授業12校、実施予定2校で、例年通り実施した	B	○広報部を中心に適切な時期にイベントを行うことができるよう再検討する ○中学校の先生方にも協力してもらえよう、中高連携のあり方を見直す	○生徒が小・中学校に行って連携を取ることが継続的にできる方策はないか考えてほしい。 ○学校選びは生徒・保護者共に迷った末本校に入学した。見学等についてくる保護者に対してどう発信するか、学校PRの工夫をすればもっと良くなるのではないかと。
			②出前授業や学校見学会、体験入学等をととしたPR活動	①地元小中学校との連携回数の増加 ②体験入学等における生徒参加者数の増加				
		②地域や小中学校関係者等との連携強化	①地域行事に積極的に参加し、地域連携を強化	①地元の企業や自治体等と連携回数が増えたか	②体験入学を1回としたため、参加者数は減少した。 ・生徒会や放送部が中心になって地域のイベントに参加することで昨年度よりも連携の回数を増やすことができ、地域連携を強化することができた	A		